

只見ユネスコエコパーク Q&A(3)

Q

只見ユネスコエコパークの自慢は何ですか？

A

「只見ユネスコエコパーク」が登録されてから「どんなことが自慢できるの？」と質問をいただくことが多くあります。只見町には冬の豪雪があり、この豪雪が作り出した険しい山岳地形（雪食地形）があり、ブナ林をはじめとした多様な森林が広がっています。そこには多くの野生動植物が生育・生息しており、中には生態系の豊かさを象徴する貴重な生物や全国的に絶滅が危惧されているような希少な生物も多く含まれています。そして、こうした自然環境や野生動植物から得られる自然の恵みを絶やすことなく上手に利用し、自然と共に生きてきた住民の生活や文化が存在します。これらは世界で今必要とされている“人と自然とが調和ある形で共存しているモデル”であり、只見ユネスコエコパークの価値と魅力です。只見町に暮らす私たちには日々当たり前のことが多いかと思いますが、実はこうしたことがユネスコから高く評価されています。ぜひ身近な自然と共生した日々の暮らしのどんなことでも自慢していただければと思います。

見慣れた自然とそれらと共生する普段の暮らしが 只見ユネスコエコパークの自慢です！

自然環境×野生動植物×環境に配慮した人間活動＝只見ユネスコエコパーク

自然環境



国内有数の豪雪が豊かな自然や独自の生活文化を育む



集落背後の山々の雪食地形やモザイク植生は世界的にも珍しい景観



只見のシンボル、ブナ林。奥山は保全され、人里ではエコツアーや教育などで活用

野生動植物



カタクリなどの希少な春植物が身近に見られる



国の特別天然記念物のニホンカモシカもたびたび人里まで現れる



絶滅危惧種に選定されているトノサマガエル。環境に配慮された稲作のおかげで健在

自然の恵みを活かした住民の生活文化



マタタビなどの植物（天然素材）を利用した編み組細工は只見の伝統文化



おじいさん・おばさんが一生懸命な庭先農業は地域の自給自足に貢献



ダイコンニューなどの冬の寒さを活かした食材の伝統的な保存方法